

患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサートのお知らせ

- ◆ 1月 22日(木) 新澤 隆さん(左手のピアノ演奏会)
- ◆ 2月 6日(金) 丹羽 千夏さん(ピアノ演奏会)
- ◆ 20日(金) 道 志郎さん(ピアノ演奏会)
- ◆ 27日(金) 池内 光子さん(アコーディオン演奏会)

中央棟1階会計前ロビーにて、19:00より開催いたします。30分間の演奏会です。是非、お越しください。コンサート予定表は、各病棟掲示板および会計前ロビーにて掲載しております。曲目につきましては、コンサート当日、会計前ロビーにて掲示いたします。ご確認ください。

外来患者さまアンケート実施のお知らせ

当院では、年に2回、外来に通院されている患者さまに、満足度調査アンケートにご協力いただいております。平成20年度2回目のアンケートを1月19日(月)～23日(金)に実施いたしました。多くの方の協力、ありがとうございます。
患者さまから、直のお声を伺うことで、スタッフ一同真摯に受け止め、今後の改善の課題とさせていただきますと考えております。当院の提供している医療に対してどの程度満足されているのか、日頃お思いになられていること、感じられていることをお聞かせいただきました。アンケートの集計結果につきましては、2月上旬より、中央棟1階・2階の各診療科掲示板および中央掲示板に掲載させていただきます。

患者さまからのご意見・ご要望

日々患者さまより頂きましたご意見・ご要望に関しては関連する部署の責任者に報告しております。改善すべき点や取り入れたほうが良いことなど出来る限り対応したいと考えております。ご意見の中で特に危険なこと、多くの方が希望していることを優先に対応したいと考えております。もちろん少数意見も対応させて頂いております。
前回に引き続き、今までのご意見の中で多くいただいたものや最近よくいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。
今後もお気付きの点やご要望をお聞かせください。(※=進捗報告)

ご意見・ご要望	改善等
外来受付前(中央棟1階)防寒対策について	『中央棟1階の診療科受付前は、正面玄関から冷たい外気が入って来て寒い』、『何とか玄関の扉の開閉調整ができませんか？寒いです。』とのご要望・ご意見を複数いただきました。 ご意見をいただきまして、開閉頻度の多い時間帯について自動扉を一時的に手動化する等検討しましたが、重たい扉を開閉するには患者さまに負荷をかけてしまうため、より多くの患者さまに有効的な策として、①正面ロアクリル掲示板脇に風よけのためのつい立を作成・設置、②ひざ掛け(ピンク色)を配布をさせていただくことといたしました。 設置とひざ掛け配布は、ともに1月中旬より開始いたしました。ひざ掛けにつきましては、中央棟1階の各診療科受付3箇所にて配布しております。ご自由にお取りいただいて、ご利用ください。また、ご返却の際は、受付までお戻しください。

編集後記

毎日寒い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか？先日、神奈川県内のたばこ対策と受動喫煙防止条例制定に向けて県民タウンミーティングが開催されました。今後、全面禁煙となる公共施設(百貨店・公共交通機関など)が約10万施設になる予定とのことでした。受動喫煙による健康被害を回避するために必須な条例で、全国へ受動喫煙防止策が広がる事を期待しています。
1981年以降国内の死亡原因第1位は癌であり、毎年48万人が癌に罹患、3人に1人が癌死する最悪の状況です。2015年には89万人が癌に罹患すると推定されています。のどの癌(頭頸部癌)は全癌の5%と低頻度ですが、増加傾向です。のどの癌に罹患する方の生活習慣には一定の傾向(飲酒・喫煙・受動喫煙)があるため予防可能です。たばこの煙を避けて、運動を行い、癌予防に努めましょう。
広報委員会 委員 門倉 義幸

北部病院だより 第53号
平成21年1月20日発行
発行責任者 田口 進(昭和大学横浜市北部病院長)
編集責任者 島田 誠(広報委員会 委員長)
発行 昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL: <http://www10.showa-u.ac.jp/~hokubu/>
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』が参照できます。

北部病院だより 第53号

第53号【2009/01/20 発行】

発行者：昭和大学横浜市北部病院

●巻頭言

『だまされた?!』

こどもセンター 准教授 五味 明

●イベント情報

感染対策・安全管理講演会

●医師の配属・異動・退職

●診療統計

●外来担当表

●患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサートのお知らせ
外来患者さまアンケート実施のお知らせ

●患者様からのご意見・ご要望



どのような年末年始をお過ごしでしたか。

巻頭言

『だまされた?!』

小児医療の荒廃が叫ばれるようになり、小児医療を目指す若い医者が激減し始めていることは悲しい限りである。まして最近では、小児科、産科、外科は「きつい(Kitsui)」「汚い(Kitanai)」「危険(Kiken)」の3Kといわれ、さらには「帰れない」「休暇が取れない」を加え5Kとなることもある。われわれ小児外科はそのうちの小児科と外科を合わせた科であり、その5Kに相当するかは本人の気の持ち方次第ではあるが・・・充分相当すると思う!



こどもセンター 准教授 五味 明

じゃ何ゆえにそのような科を選択したのかであるが、私においてはだまされたからではない。我々医局員の中にもこのようなだまされたと公言してはばからない輩はいると思う。なぜなら私も彼らをいくぶんかだまくらかして入局させた経験があるからだ。将来のある前途有望な若者に対しなんていい加減なことをしたのかと言われると、そうでもないし集まらないからだというのは嘘で、実を言うと外科の中でもこの小児外科はとてやりのある科であることを判ってもらいたいがゆえにのこだからだ。私が医学生のところはまだ小児外科という科目は全国レベル的には数か所程度見られる極少ない科であり、医者になっても漫然と外科に進もうとしか考えていなかった自分であったが、恩師の教授にだまされたと思って入ってみると言われて入局してから約25年間、こどもの手術を多数経験し、変わったところではエジプトのカイロ小児病院での仕事や未開の地での診

療など一般の医者では経験できないこともさせてもらい充実した医療を行って来て、後悔したことは一度もないわけではなかったがほとんどなかった。

小児外科は何をしている科であるかといえば、胎児から15歳までの子供の脳、心臓、整形、形成を除く外科疾患を扱う科であり、一般的には子供の鼠径ヘルニアいわゆる脱腸や虫垂炎を手術することが多い科である。母体内にいる胎児に対しても胎児手術という危険な手術を行うこともあり、特に我々の専門は新生児外科といって、生後間もない新生児の外科的手術を行い管理することを得意とし、小児系の病棟と救急病棟以外ではあまりお目にかかれぬ医者たちである。近年、出生数の低下とともに高齢出産が増え、低出生体重児いわゆる未熟児が増加してきている。我々も体重350gの超未熟児の腹部手術を成功させ、現在では正常に成長しているこどもを経験しているが、これは我々小児外科だけではなく新生児科、麻酔科の協力あってからこそのことである。しかしこのようなことは世間に出ることもなく、病院内でも知られることがあまりないことは事実であるが、そんなことは全然気にしていない。なぜならこのように成長していく子供たちを助ける手助けができること、また元気になっていく過程を実感できることが逆に自分を成長させ、かつ達成感を味わえることができるからだ。自分たちの治療した責任はその患児の成長とともに極端を言えば一生にわたり負わなければならないという重圧感もあるが、それはどの科においても同じことであり、それだけの価値はあると思う。また、患児の病気に対するケアのみならず、成長とともに受け入れざるを得ない経済的・社会的ハンディキャップに対するケア(医療ではない)も行っており、それを行うことが患児のQOLを向上させる要因であると思う。3Kないしは5Kはまだ当分続くと思うがそれらを補って余りあるだけの価値のある小児医療を見出すべきであり絶対であると思う。毎年の年賀状で幼稚園に入園、小学校、中学校、高校に入学して元気でいることを報告されるのが楽しみであり自分の仕事に誇りが持てるというものだ。そのためにもこれからもどんだまくらかしてやっ払いこうと思う。

